



### 枝廣 淳子

えだひろ じゆんこ  
アル・ゴア著『不都合な真実』翻訳者 / 環境ジャーナリスト  
東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了(有)イーズ(有)チェンジ・エージェント 2つの会社を運営する傍ら、執筆、講演、翻訳、環境NGO運営など、環境を軸にマルチキャリアを展開中  
これらの活動経験やノウハウを生かし、ビジョンづくりや自分マネジメントのコーチングを提供するほか、「システム思考」の普及に力を入れている  
NGOジャパン・フォー・サステナビリティ共同代表  
著書に『地球のためにわたしができること』  
翻訳書に『不都合な真実』ほか多数



北海道  
洞爺湖サミット  
7月7日~9日

「なぜそんなに熱心に環境問題に取り組んでいるのですか」と、よく聞かれます。「なぜだろう?」と振り返っていても行き着くのは、保育園から小学校4年生まで過ごした宮城県の片田舎での少女時代。小学校までは歩いて30分、途中でヤギに草を食べさせたり、サルビアの蜜を吸ったり、真正銘の「道草」をしていたせいもあるけど!。学校が終わると、帰るなりランドセルを放り出して、家の前の畑の堆肥の山でミミズを掘り、それを空き缶に入れて、川に釣りへ。春になれば、山や丘の、自分だけの秘密の場所にフキノトウが出てくるのを楽しみに待ち、夏になれば、公園でセミを捕ったり、大木の根元でオケラ(知ってます?)「手の平を太陽に」という歌にも出てくる虫(す)を掘ったり。まわりの自然が遊び場でした。

## “水道”と同じくらい重要な“緑と公園”

そんな子供時代が、いまの活動の原動力のひとつなのだろうなあ、とよく思います。私だけではなく、環境活動に熱心な仲間や先輩たちに聞いて



コロンビア ボゴタ市内にある 広大なシモン・ボリバル公園  
写真提供: コロンビア大使館

「なぜそんなに熱心に環境問題に取り組んでいるのですか」と、よく聞かれます。「なぜだろう?」と振り返っていても行き着くのは、保育園から小学校4年生まで過ごした宮城県の片田舎での少女時代。小学校までは歩いて30分、途中でヤギに草を食べさせたり、サルビアの蜜を吸ったり、真正銘の「道草」をしていたせいもあるけど!。学校が終わると、帰るなりランドセルを放り出して、家の前の畑の堆肥の山でミミズを掘り、それを空き缶に入れて、川に釣りへ。春になれば、山や丘の、自分だけの秘密の場所にフキノトウが出てくるのを楽しみに待ち、夏になれば、公園でセミを捕ったり、大木の根元でオケラ(知ってます?)「手の平を太陽に」という歌にも出てくる虫(す)を掘ったり。まわりの自然が遊び場でした。



ドイツの環境都市フライブルグ 公園内の環境教育施設 エコハウス

# message



2007年世界大会にて(前列右から2人目が筆者)

「なぜそんなに熱心に環境問題に取り組んでいるのですか」と、よく聞かれます。「なぜだろう?」と振り返っていても行き着くのは、保育園から小学校4年生まで過ごした宮城県の片田舎での少女時代。小学校までは歩いて30分、途中でヤギに草を食べさせたり、サルビアの蜜を吸ったり、真正銘の「道草」をしていたせいもあるけど!。学校が終わると、帰るなりランドセルを放り出して、家の前の畑の堆肥の山でミミズを掘り、それを空き缶に入れて、川に釣りへ。春になれば、山や丘の、自分だけの秘密の場所にフキノトウが出てくるのを楽しみに待ち、夏になれば、公園でセミを捕ったり、大木の根元でオケラ(知ってます?)「手の平を太陽に」という歌にも出てくる虫(す)を掘ったり。まわりの自然が遊び場でした。

いよいよこの夏、北京オリンピックの開催です。いかに勝つか、私は日本オリンピック委員会の選手強化本部長として、日本の選手を科学的に分析して現状を把握した上で様々な課題の解決を図るために「国際競争力2007」を作成し、ゴールドプランとしてわかりやすい数値目標を掲げました。1996年のアトランタオリンピックで獲得したメダル数は世界23位、全体シェアは17%でしたが、それを今後の指標としてシェアを3.5%へ引き上げることとしました。ところがアテネの成績は世界5位となり、シェアは3.8%へと急上昇し、目標の前倒しが実現しました。それで

はと今度は世界3位を目指す新ゴールドプランをたてたのです。最強のアメリカ、ロシア、中国の三国が相手ですから大変な目標設定です。それでアテネの成績の内訳や、その後の世界選手権などの成績を分析し、最も競争力のある柔道、レスリング、体操、水泳、陸上など5団体に絞られ、かつ種目を絞り、そのうえ選手も絞って、徹底的に強化する方針を打ち出しました。現場の監督、コーチの要望から、外国との試合が必要な場合、多くの大会出場や合宿が望ましいのか、優れたトレーナーが要するのか、良い食事が足りないので、きめ細かく聞き出し、それを反映させたプログラムを作成、いま全力を挙げて取り組んでいます。それとともに、総監督としてアテネから帰って来た小泉首相に報告をした際、1964年東京オリンピック以来のスポーツ界の悲願だったナショナルトレーニングセンターの必要性を強力に訴え、ご理解いただきました。そして東京都北区西が丘に建設され、屋内施設は少し遅れましたが昨年12月に屋内外施設がともに使えるようになりました。北京までわずか半

## オリンピック 北京 そして東京



東京都北区に完成した ナショナルトレーニングセンター

年の間ですが、選手の強化環境がようやく整ったのです。2016年オリンピックの東京招致にも力が入って来ました。しかしオリンピックは開催国の選手が強くないと盛り上がりません。選手の育成強化には10年かかります。選手のピークを10代から20代と考えると、3歳頃から育成強化に向けた態勢づくりをしないと間に合わない、とにかく選手の育成が急がれます。1964年の東京オリンピックからすでに44年経ちました。見たり聞いたりした体験者も少数になっていきます。世界のトップクラスのスポーツ選手が集まって見せる人間の強さと弱さ、喜びと悲しみ、頑張りや勝負どころなど、それらが与える感動は人間にとってとても大事なことで、選

手の強化とオリンピックの招致は両輪としてやらなければなりません。東京の計画はコンパクトで環境に配慮したものです。しかし東京には緑がまだまだ不足しています。北京はオリンピックを契機として広大な緑地の輪を外周にめぐらせました。いまの環境汚染も国家の威信にかけて克服するでしょう。東京では安藤忠雄さんの提案で小中学校の校庭を芝生にする計画が進んでいます。ヒートアイランド対策だけでなく、子供たちの体力回復にもなり、大賛成です。お台場もいまは砂漠のようですが、緑と水のなかにスポーツ施設を点在させれば、東京という世界都市にオリンピックが大きな遺産を残せることとなります。前回の東京オリンピックは東京に高速道路を張り巡らせ、東海道新幹線を開通させ、東京や日本を良くも悪くも現代都市へと大改造しましたが、今回もオリンピックを招致できれば、東京を水と緑のスポーツ健康都市に変貌させる最大のチャンスになるのではないのでしょうか。UR都市機構も環境をテーマに様々な都市づくり事業を展開されているようですが、この機会にいつそう活躍して欲しいですね。(談)

北京オリンピック  
8月8日~24日



前回のアテネオリンピックで全階級でのメダル獲得を成し遂げた女子レスリング代表(上)吉田沙保里選手(下)伊調 馨選手

### 福田 富昭

ふくだ とみあき  
北京五輪 日本代表選手団 団長



1941年12月 東京都生まれ 富山・滑川高から日本大学へ 1965年レスリング世界選手権男子フリースタイル・バンタム級優勝  
(財)日本レスリング協会会長、国際レスリング連盟副会長、JOC 選手強化本部長を兼任  
アテネ五輪では日本選手団総監督を務めた

ター・ブラウン氏は、最新刊の『プランB30』のなかで、「駐車場面積に対する公園比率を計算すれば、その都市が自動車のためにつくられているのか、それとも人のためにつくられているのかがわかるだろう」と述べています。街にとって、その街に住む人にとって、そしてその国の未来にとって、緑や公園はどれほど大切な役割を果たしているのだろうか? 公園の木陰で気持ちのよい風に吹かれながら思いを馳せてみませんか?